

街を行く

第45回 キーウェスト Key West

これこそ大人のリゾートです

マイアミから南へ車で100マイル。憧れのキーウェストにやって来ました。プライベートな物件でフロリダ州フォートローダーデールに来たついでに自分への御褒美を兼ねた訪問です。この地の何とも言えない解放的な雰囲気は、もうアメリカというよりもカリブ海をまたぎキューバ(行ったことはないのですが、たぶん合っている)にまで来たようです。

キーウェストの街を有名にしたのは、何といっても文豪アーネスト・ヘミングウェイが15年間を過ごし数々の名作を書き残したこと。名物はもうひとつあり、この街に来たら必ず通るであろう「セブンマイルズブリッジ」です。7マイル(10km)も続くこの橋のオリジナルは100年前に作られた鉄道用だったのですが、ハリケーンにより幾度も壊されたようです。それにもめげず作り続けようとした開拓者魂(フロンティアスピリット)にはアメリカ人そのものを感じます。

街に入ると、そのとたんに頭の中から「仕事」という二文字が消し去ります。この得も言われぬ開放感がキーウェストの何よりの“おもてなし”であり、これぞ“リゾートの醍醐味”なのでしょう。つまり、街自体がリゾートになっている。日本ではなかなか味わえないことです。それはなぜなのでしょう。おそらく、一企業がプロジェクトとして街づくりの責任を背負われ、その重圧の中で開発されるため、保守的となり、どうしてもスケールが小さく箱庭のような出来上がりとなるからでしょう。

リゾートの街の核を担う機能は何といっ

街をそぞろ歩き海を眺めるだけで充実した1日となるキーウェスト



てもホテルですが、その役割だけでリゾートを演出するには限界があります。ホテルでのんびり過ごす欧米スタイルであっても、夕食時には街へ出かけ毎日のように街全体の開放的な雰囲気を満喫します。しかし日本のリゾートの構造はホテルと観光名所しかなく街を形成していません。リゾートプロジェクトとの連携で共存共栄することなく寂れてしまっているのが現状です。

本来、観光・リゾートエリアは、まず雰囲気のあるよい街があって、その中に街の雰囲気を存分に満たす不動産プロジェクトが現れてくるはずのもの。主役はあくまでも街なのです。中には街と観光地が共存しているところもありますが、それでも、やたらと都会的雰囲気を匂わせたり、お土産のためのお土産物屋が並ぶぐらい。日常を離れリラックスするにも、なぜか落ち着かない。これは対象が若者が高齢者に分かれ、仕事を離れるひとときが最も欲しいお金のある中高年の大人が対象になっていないからでしょう。日本にはリゾートさえも大人向けが少ないのですね。

今回の滞在で久しぶりで命の洗濯がで



文豪ヘミングウェイが暮らした家

きたような気がしました。でも洗濯しすぎて現状復帰がとても辛かった。将来年金も期待できない日本ですから、いっその様な場所でゆっくりとスローライフがしたいですね。でも、それには先立つものがしっかりなくてははいけません。嗚呼、俗世に戻ってしっかりと働くしかないか…。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。